

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600755
法人名	医療法人 社団芳洋会
事業所名	グループホーム やすらぎ
訪問調査日	平成20年3月31日
評価確定日	平成20年4月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 4月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473600755号
法人名	医療法人 社団芳洋会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	横浜市泉区和泉町7315-7 (電話) 045-303-7871

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年3月31日	評価確定日	平成20年4月18日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 10日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	28人	常勤 4人	非常勤 24人	常勤換算 9.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4 階建ての	(2)階 ~	(3)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	72,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 240,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要 (3月10日 現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜寿光会クリニック 横浜いずみ台病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、横浜4号線沿いにある横浜寿光会クリニックの2,3階にあります。廊下やテラスからは、街並みや畑、連山・富士山等が見え、居室にこもりがちな方にも自然をめでたり、気晴らしをすることができます。併設のクリニックにて健康・医療面の対応が可能のため、ケアの支えとなり安心して暮らしています。
会議、職員研修(内・外部)は参加しやすい仕組み(研修費・交通費の補助、時間外手当、勤務体制)となり、職員の質の向上になっています。また、職員は、利用者の目に触れない場所に、食事や排泄の情報を図や一覧表にして掲示、共有して適切な支援をしています。10月に自治会へ加入し、ボランティアの問い合わせも増えました。地域の一員として共に支えあえる地域へと、交流が動き始めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題の、研修に参加しやすい仕組み作りは改善され、緊急時の手当てについても(職員全員が救急救命(AED)の研修を受講しました。地域交流については、運営推進会議、自治会加入、ボランティアの募集が実施されました。前回の外部評価結果は玄関に誰でも閲覧できるよう、ファイルされて置いています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価表は約2ヶ月ほどかけて全職員が取組みました。毎日、項目を決め、出勤した職員が中心となり検討をした結果を担当者がまとめて記入しました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は3ヶ月に1回開催します。第1回は8月に、利用者、家族、地域住民、行政、地域包括支援センター、事務局が出席しました。ホームは事業報告と自治会の加入について説明しました。会議の場で出た家族や住民の要望についても、職員に名札をつけたり、パンフレットに傾聴ボランティアの募集を添付して回覧するなど取り組んでいます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会は1回開催しましたが、運営推進会議に家族も出席し要望・意見を聴いています。イベントは季刊「やすらぎ通信」を発行して、利用者の暮らしぶりを報告しています。面会時は日常の様子、変化の見られた時など家族の意見を聴き介護の変更等を説明しています。重要事項説明書に、ホーム・外部の苦情相談窓口が記載されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 今までは、地域住民がホームへ立ち寄ることが殆どありませんでしたが、運営推進会議の開催により地域との交流が増えました。住民の助言もありボランティアの募集を行い、ホームへの問い合わせも増えてきました。自治会への加入によって、地域の中できちんと暮らし、支えあえる関係作りが動き始めました。ホームの役割を広め日常のかかわりの中で地域交流が盛んになることを期待します。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念『入居者一人ひとりの経験、個性、思いを尊重し、楽しく充実したやすらぎのある生活を送っていただけるよう、家族と連携し、絆をつくり親身な介護をもって支援させていただきます。』とあり、また地域との関係性を重視した総合的なサービスの提供に努めることを運営方針に掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下、各事務所の目に触れる場所に掲示されています。管理者・職員は、朝・夕の申し送りの時、全員で唱和し、共有しています。各自、身につけている名札の裏にも理念が明記されており、意識を高める工夫もされて日々の取り組みをしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや11月は泉区主催の衣類リユース事業のイベントに参加、地元の小学校の作品展に貼り絵の大作を出品し参加しました。10月に自治会へ加入し、傾聴ボランティアの募集を行いました。問い合わせも増え、地域の一員としてホームと住民の交流が動き始めました。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は2月から毎日、項目を決めて出勤した職員が中心となり、リーダーも必ず話し合いに参加して検討をしました。結果については、担当者がまとめて記入をしました。全職員が評価の意義を理解しています。「今後も継続していく」「～努めていく」「～活用していく」等の前向きな記入が多く見られます。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月に運営推進会議の顔あわせを行い、3ヶ月ごとに泉区の会議室で実施しています。事業所報告や家族や自治会長等からの意見、要望や助言等を出来ることから速やかに実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に区主催の認知症高齢者グループホームスタッフ連絡会に出席し情報交換や課題等の話し合いをしています。横浜市の委託事業で、高校生のボランティアによるネイルアートを受け入れ、女性の方に喜ばれました。利用者と同行して行政との係わりを支援してま		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	連絡の取れる家族には、大きなイベントが行われるごとに「やすらぎ通信」を送付して、利用者の暮らしぶり等を報告しています。家族が面会にきた時には金銭報告をしています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は過去に1回開催されましたが、最近では運営推進会議に家族も出席して、要望・意見を聴いています。冷凍食品の利用等を家族に相談しています。重要事項説明書には、ホーム・外部の苦情相談窓口が記載されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近2名の職員が結婚で退職しましたが、利用者の方々には、辞める前に新しい職員と馴染めるよう一緒に勤務をして引継ぐことで利用者の混乱を少なくしました。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から職員に研修を受けるように積極的に声掛けを行っており、平成19年度はAEDの救急講習を含め25件の研修を実施しました。研修に参加する際には出席しやすいようにシフトを調整している他、非常勤の職員を含めて外部研修の講習費・交通費の補助をしています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者のホームと職員の3日間の交換研修を2度行っています。また、管理者とケアマネジャーで他事業者のホームを見学に訪れ情報交換等を行いました。区の連絡協議会や地域包括支援センター等を通じて、同業者との勉強会に参加をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員の手が空いた時間帯に見学を勧めて、ホームの雰囲気体験できるようにしています。またホームの日常を、家族を含めて本人に説明する機会を持っています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ADL(日常生活動作)が低下している利用者が多いため、おもに話で料理の仕方や昔習ったダンスのステップ、あるいは体験等を語っていただき参考にしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の気持ちを代弁して、家族に伝えたり、どの利用者も外出が好きなので、通院の帰りにドライブがてら桜並木を見るために遠回りをしたりしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月2回午後の1時から3時頃までミーティングを開き、職員が把握した利用者の情報や自立支援に向けた職員のアイデアを取り入れて介護計画を作成しています。家族のいる利用者は、面会時に説明をして同意を頂いています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは原則6ヶ月ごとに行っています。モニタリングはミーティングを行い、計画の見直しをしています。状態の改善された例は、車椅子から4点杖の使用や、歩行器を利用して歩けるようになったり、また医者や相談して睡眠剤を軽い寝酒に切り替えて、夜の睡眠が取れるようになるなどがあります。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療関係は、系列病院の歯科診察の同行、他の医院への付き添い、クリニックでの診療等を支援しています。特別外出支援では法事や友人に会いに行く、行事で動物園、誕生会の外食、初詣等をしています。また平成20年度に、入所希望者を対象にした認知症対応型通所介護の導入を検討しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックが訪問診療をしています。看護師が1日置きに様子を見にきて、状態変化時は医師と相談して適切な指示をされます。また、週1回認知症に詳しい医師の診察もあり相談できる関係を築いています。歯科は協力医療機関へ送迎車で通っています。入居前のかかりつけ医の通院は家族が同行しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「医療連携体制加算について」の説明と同時に、「看取りに関する指針について」も説明をし、同意書を頂いています。本人・家族、医師、職員はその方針を共有しています。職員とは、重度化や終末期のケアについて、出来ること、出来ないことを話し合っており、ホーム内の体制を整備しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等で言葉かけや対応について話し合っています。申し送りやミーティングはスタッフルームでプライバシーに係ることが洩れないように配慮しています。記録等は鍵のかかる場所に保管されています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを聞いて対応しています。入浴は前日に希望を聞いておき当日実施しています。食事は本人の希望で朝食を居室で対応している方もいます。また利用者ができることまでやってほしいと希望する場合には、リハビリの大切さも考慮した上で支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂の入り口に1日の献立を読みやすくボードに掲示をして、食事への関心を向けています。職員と一緒に朝、昼の準備や和え物を盛る、お茶を入れる、片付け等その人のできることを見守り、献立の説明をしながらさりげなく介助をしています。職員のアイデアにより、車椅子の座位姿勢を保ちながら職員と一緒に食事をしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室へのドアに入浴の効能を見やすく分かりやすい掲示をしています。脱衣所は各地の温泉暖簾を下げて寛げる工夫をして柚子湯、菖蒲湯のお楽しみ入浴もあります。浴室は個人と共同用、機械浴槽があります。健康管理表で状態を、また入浴希望も把握して、入浴拒否には前日の約束や髭剃りで誘いの声かけをしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の準備やお茶を入れたり、掃除、洗濯物のたたみ、植栽の水遣りなどの役割を分担しています。切り絵や折り紙の作品、小学校の作品展へ出品する貼り絵の制作など、楽しみや気晴らしができるように支援しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により散歩や買い物、通院等の日常的な外出の他に初詣、誕生会の外食、地元の交流会等の出かけられるような支援をしています。ホームは2,3階なので、テラスに出ると、街並みや畑、遠くの山並み、富士山を展望することができます。五感への刺激や気分転換をはかることができます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や各ユニットの玄関は鍵をかけていません。玄関のドアにはやさしい音色のベルが下げてあり出入りが分かるように工夫されています。夜間のみ玄関に施錠しています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員会を設置して管理者・計画作成者・介護スタッフ2名が中心となり、訓練を年2回実施しています。避難訓練は職員が利用者を近くの公園へ誘導したり、消火訓練を実施、うち1回は消防署に連絡した合同訓練を実施しました。今後は地域の方の参加や協力を得た計画も望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が豊富に使用された献立で、栄養バランスが摂れています。健康管理表により一日の食事量や水分摂取を把握して利用者個別の支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はテレビやソファ、皆で作り上げた貼り絵の大作やパッチワーク作品を飾り、廊下は、職員の写真紹介や行事写真等を掲示してます。機能的で広い3種類のトイレや浴室など共有空間は、ゆったりと寛げるように配慮されています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面所や収納場所が設置されています。家族と相談して、各自のベッド、家具、テレビ、椅子等使い慣れたものが配置されています。また家族のいない方や連絡のとりにくい方は職員と相談しながら必要な品物を揃えたり、ホームにある品を貸し出して、居心地よく過ごせるように配慮をしています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ
(ユニット名)	2階ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町7315-7 2・3階
記入者名 (管理者)	小林 直樹
記入日	平成 20 年 3月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活が送れるよう、利用者の思いや個々の力に合わせたケアを行なうことを基本としている。	その人らしさが発揮できるよう、事業所だけではなく地域などの社会資源を生かしたケアが出来るよう展開していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・定例会議・常勤会議などを理念の共有の場として活用している。その中で事業所としてのケアの方針などを確認しあっている。会議録にて出席できなかったスタッフも共有できるよう努めている。	今後も継続して各ミーティングを行ない、理念の共有を図りたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面談時や運営推進会議の際に、事業所の活動や理念を伝える場として活用している。	近隣住民の方たちへのアプローチが少ない為、力を入れていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や花壇を整備している際に、気軽に声を掛けていただく機会が増えている。	事業所のイベントなどにも地域の方を招待し、より良い関係を作っていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや区のリユース事業名などの地域のイベントに参加させていただいている。又昨年からは自治会に加入させていただいている。	今まで参加したことのない、活動にも参加を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて地域での課題や要望が発見できるよう努めている。		地域の資源として近隣住民の方にはいかして頂けるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の様子を見ていただく事で、自分たちでは気づきにくい、良い点や改善すべき箇所を把握し、質の向上に努めている。		今後も全スタッフで自己評価を行ない、普段の業務にいかしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を頂ける場として、真摯に受け止め、業務の改善にいかしている。名札やパンフレットの変更などの改善を行っている。		事業所・地域の課題を話し合う場として今後も活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区のグループホーム連絡会などを通して、話し合う機会を設けている。		サービスの質の向上のためにより密接な関係を作っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、どのような制度なのか、理解し必要性について学んでいる。		全職員が制度に対する理解を深め、ニーズに応じて活用していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を議題にしたミーティングを開催し、徹底に努めている。		勉強会などには今後も積極的に参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いを十分に行ない、ご理解をいただいている。電話や郵送での説明を希望される方もいるが、必ず事業所を実際に見て頂きその上で説明を行なっている。		今後も同様に、ご理解いただけるよう努めていく。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明している。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示している。		今後も同様に行なっていく。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に事業所の行事などを載せた通信を作成し送付させていただいている。面会時にはスタッフが日々の様子や状態を伝えさせていただいている。		通信とは別に、個々の様子が分かるような手紙などを送付していきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明している。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示している。運営推進会議でも苦情等があれば反映していく。		今後も同様に行なっていく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議などでスタッフの意見・提案を聞く機会としていかしている。		より良い運営が行なえるよう活用していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、勤務時間帯については変更していないが、利用者の状態や家族の状況に応じて勤務時間を変更しなければならない事もあると職員と話合っている。		柔軟に対応していく。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力はしているが、代わる場合は前もって利用者に説明を行ない、ひとり1人に話しかけ、極力ダメージを防ぐよう心掛けている。		出来る限り移動・離職がないよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は去年より介護部門を対象に始まり、地区会も動き始めている。法人外では勤続年数に応じた研修があれば、勤務を調整して参加できるよう努めている。		全スタッフの質の向上や意欲を高める為、今後も積極的に研修を取り入れていく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や地域の連絡会などを通じて勉強の機会を設けている。		法人内外に関わらず、積極的に交流を深めていく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングなどでスタッフ同士の交流を図っている。又、年に数回だが外部での食事会を開催している。		ストレスをもつスタッフは少なくなく、今後も精力的に改善できるよう努めたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	電話やメールなどで随時、状況を報告している。		向上心に繋がるような環境を整えていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるよう対応している。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしている。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるよう対応している。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしている。		今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への紹介や、地域包括支援センターへの紹介を含めた対応を行なっている。		家族や本人が何を一番求めているのか、それに答えられるよう質の向上に努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、可能な限り見学や説明会を行ない、ホームの日常を体感出来るよう心掛けている。		今後も見学の機会を多くもてるようにし、入居前からホームの雰囲気に馴染めるよう努めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者様が持たれている力を発揮出来る場面作りを心掛けている。昔の事を教えていただいたり、料理や歴史などについてお話を聴かせて頂くことも多い。		常に、どのようなケアを行なっていったら良いのか検討し合いながら質の向上を目指したい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、実際あった出来事をお話させていただき、日常生活の様子を把握していただくように心掛けている。その際ご家族様の力が非常に大切である事を伝えるよう努めている。		家族への連絡や相談をこまめに行ない、協同して利用者を支援していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでの関係をよく理解し、状態に合わせた関わり方を心掛けている。		家族への支援を今後も継続していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居を機会に関係が希薄にならないよう、長い期間連絡や面会のない方については、御本人様と一緒にこちら側から連絡を取らせて頂いている。		今後は馴染みの場所に対してのケアも力を入れていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションがうまくいくように、利用者の力に応じたケアを行なっている。又、トラブルを未然に防げるよう常に状態の把握に努めている。		良好な関係が保てるよう、小さな変化でも気付くよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後、関わりを必要とされている利用者や家族に対しては電話相談や、直接お会いし、お話を聴ける機会を作っている。		利用者や家族にとって一番良い状態になるよう、今後も継続して行なっていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動、家族の情報をもとに、出来る限り希望や意向を把握するよう努めている。日常の申し送りなどで情報共有に努めている。		スタッフ全員で情報が共有できるよう、申し送りやミーティングを継続していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、友人や親族など利用者を知っている方からは出来る限りお話が聴けるように努めている。他施設から来られた場合は各担当者から直接話を聴くようにしている。		入居前の情報収集を充実させたい。生活歴を把握することが難しい利用者もいる為、改善していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人・家族からの聞き取りから入居前の状態や生活リズムを把握するようにしている。入居直後、入居1週間後など定期的に変化がないか申し送りなどを通じて把握できるよう努めている。		小さな変化や現状がどのような状態なのか、把握できるよう全職員で努めていきたい。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が把握した情報をもとに、介護計画を立てた段階で、スタッフ間にて検討し、次に本人や家族、関係者に相談させていただいている。その後、再度スタッフ同士にて検討し、最終的に本人・家族の同意が得られるよう努めている。		今後も、本人や家族の意向を反映した計画を立てられるよう、連絡を密にしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが必要な場合は変更を行ない、短期間にて再度見直しを行なっている。		柔軟な対応が出来るよう今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に詳細を記録している。		個別の記録の重要性を全スタッフで理解したうえで、記入するだけの記録ではなく生きた記録になるよう心掛けていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に柔軟な対応を心掛けている。事業所として限界もあるが、可能な限りは要望に応じていきたい。		社会資源を活用しながら今後も対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの小学校や区の展示会に作品を出品し、展示会に参加させていただいている。又、民生委員や町内会会長の協力を得てボランティアの紹介をして頂いた事がある。		より良い関係が出来るよう努めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内外問わず、情報提供・交換を行なっている。		より多くの方との関係を築いていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりが多くなってきている。		今後、協働出来る関係を確立していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ建物内にかかりつけ医があり、常に情報交換が出来る環境が築けている。本人や家族の意向もすぐに話し合える関係でもある。		継続して今の関係を大切にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	クリニックに週1回、認知症に詳しい医師が診察に来ており、気軽に相談できる関係を作り上げている。		継続して今の関係を大切にしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ建物内の看護職が頻繁に来られ、相談を行なっている。それ以外でも、気軽に相談できる体制が整えられている。		継続して今の関係を大切にしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際に、病院関係者と話し合う機会を必ず設け、状態の確認や退院について、今後のサービス利用についても担当医師を含めて相談させて頂いている。		入院時に備え、病院関係者との関係を広めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際に、本人や家族と話し合いを行なっている。また、介護計画更新などの機会に、希望に変化がないか確認している。かかりつけ医に対しては、本人・家族の希望を伝え実現できるよう働きかけている。		本人・家族と繰り返し話し合う機会を今後も継続したい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期ケアについて、出来ること・出来ないことを関係職員と話し合っている。		しっかりとしたケアが行なえるよう、重度化や終末期ケアについての対応を想定した勉強会を開催していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替える際、事前に、本人・家族と見学をさせて頂き、本人・家族の不安な点などは担当者に伝えている。又、介護サマリーを提出させて頂き、口頭での情報交換もさせて頂いている。		現状の対応を維持していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時やミーティングの際に繰り返し伝えている。	徹底されるよう継続して伝えていきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの力に合わせて、希望が聴きやすい状況や方法を試行錯誤している。自己決定についても同様の対応を行なっている。	検討を繰り返し、利用者本位のケアが出来るよう努めたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に合わせたケアを心掛けている。	まだまだ利用者主体とはなっていないので改善していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれについてはその人らしさが出るように努めている。現在、外部の理美容を希望されている利用者はいないが、希望があれば支援していく。	地域の中の理美容の利用も含めて検討していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で料理の準備や後片付けを利用者と一緒に行なっている。	本人の好みをどのようにして取り入れていくか工夫を重ねたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	かかりつけ医・看護師と相談しながら、身体状況に合わせて支援している。	要望がなかなか表現できない利用者であっても、日々の会話や活動を通じて把握し、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンをチェック表や介護記録から把握するよう情報を共有しスタッフ間にて話し合いを行なっている。		個別の排泄ケアが確立できるようにしたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせた入浴を心掛けている。		入浴を拒否されるケースが多い為、どのようにしたら、気持ちよく入浴していただけるか追及していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて適度な休養が出来るよう、状態把握に努めている。		休息する場所の環境を、より良くしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職歴を考慮して、料理や掃除、買い出しなどの役割活動を行なっている。		全ての利用者が役割や楽しみごとが発見できるよう今後も努力していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談し、お金を所持したり、自由に使えるようにしている。支払い時に利用者の力に合わせて、お金を渡したり、おつりを受け取っていただいたりしている。		お金を持つことの大切さや意味を全職員が理解できるようにしていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の買物希望や散歩の希望があれば、それに沿った対応をしている。外出希望のない利用者であっても、天気の良い日などは、散歩や外出等に誘い、外の空気を感じていただけよう支援している。		現状なかなか希望がないが、外食やお茶を飲みに行くなど、外出の幅を広げていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法事や友人に会いに行くなど、希望に沿った支援を行なっている。		利用者の行ってみたい所をスタッフが知り、可能な限り対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している。		今後も自由に電話や手紙ができるよう支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限は設けず、自由に面会することが出来る。スタッフも来客者に対して笑顔であいさつするよう心掛けている。		継続して現状の体制で対応していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なってはいけないと、会議やミーティングの際に職員に伝えている。又、具体的な事例を検討する機会も設けている。		今後も全職員に理解してもらえるよう、勉強会等を通じて、最善の対応方法を検討していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活を支える為、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。鍵を掛けることによってどのような影響があるのかミーティング等でスタッフ同士確認しあっている。		今後も鍵を掛けないケアに取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく、施設内の巡回等を行ない、利用者の場所や状態をスタッフ同士確認し合い利用者の所在や様子の把握に努めている。		巡回方法やスタッフ同士の連携を今後も見直していき、しっかりと安全を確保していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせた対応を行なっている。		状況に合わせた環境づくりを行なっていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に事故防止委員会を開催し、事例検討や、防止策について検討している。		今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応の研修は法人内外でも受けているが、定期的には開催していない。		定期的な開催を目指し、繰り返し研修をかさねて学んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっている。		全ての職員が避難方法を身につけられるよう、対策会議の開催を増やしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、随時説明させていただき、対応方法について相談させていただいている。		家族の希望を大切にされたケアが行なえるよう今後も話し合っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも気になった点については、申し送りや口頭などでスタッフ同士確認し合っている。身体的な異常であればすぐに看護師に相談し意見を頂いている。		見落としがないよう今後も注意深く利用者を把握できるよう努めていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は受診ファイルに保管し、随時閲覧できるようにしている。不安な点は看護師に相談している。		薬の効能や副作用については今後も勉強会を含めて伝えていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動や乳製品の摂取、マッサージ など、自然排便が出来るよう工夫した対応を行なっている。		利用者の便通の状況を把握し、そのひとにあったケアを心掛けていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。又定期的に歯科衛生士に口腔内の様子を見ていただきアドバイスを頂いている。		今後も歯科衛生士と連携して適切な口腔ケアが出来るよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を記録に残し、摂取量が少ない利用者に対しては随時摂取できるよう努めている。		摂取量に注意し、利用者の状態や習慣に合わせたケアを今後も継続していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成・定期的な見直しを行なっている。感染対策委員会を設置し、事業所内外で研修を行なっている。又流行時期には臨時的感染対策会議を開催し、症状や予防法について確認しあっている。		定期的に感染対策マニュアルを検討し、適切な対応が出来るよう心掛けていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は夜間に行なっている。食材については業者に発注しているが、最終的な確認はスタッフが行ない、食の安全に努めている。		衛生管理に今後も注意をしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に草花を植え、季節感を感じていただけるようにしている。また看板は手作りのものを用意し、出来る限り温かい雰囲気になるよう努めている。		事業所が鉄筋コンクリート作りのビル内にある為、今後もより明るく親しみやすい環境づくりに力を入れていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせた音楽を流したり、行事の写真や作品を展示し、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。		常に改善していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビングに、ソファーやテーブルを用意し、思い思いに過ごせるよう努めている。		スペースをうまく活用し、利用者に合わせて環境を作り上げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	出来る限りそれまで使用してきたものや大切なものは、持ち 込んで頂くようお願いをしている。新しく購入する場合でも 利用者や家族と相談しながら準備している。		制限のある利用者についても、今後改善していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	スタッフ同士確認し合いながら調整を行なっている。		利用者の状態に考慮した対応を行なっていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	トイレ・浴室には手すりを設置している。その他は家庭と同様 にしている。身体機能に合わせた生活が送れるよう、環境整 備に努めている。		一人ひとりの状態に合わせた環境整備を心掛けていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫して いる	トイレに目印をつけたり、居室入り口に表札をつけ、出来る限 り自立した生活が送れるよう日々、検討している。		家庭的な雰囲気をおこさないよう工夫を続けていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダ付近の扉については、突風の影響でガラスが割れ たこともあり、安全面から2階3階ベランダについては一定の 制限を設けている。現在安全確保について検討中。外周り や4階ベランダについては利用者も自由に利用している。		制限なく安全確保が出来るよう検討していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

健康面や医療面での不安を訴えられる、ご利用者やご家族が非常に多い。グループホームやすらぎは医療法人が運営しており、同じ建物内1階にクリニックがあり、高齢者

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎ
(ユニット名)	3階ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町7315-7 2・3階
記入者名 (管理者)	小林 直樹
記入日	平成 20 年 3月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	その人らしい生活が送れるよう、利用者の思いや個々の力に合わせたケアを行なうことを基本としている。	その人らしさが発揮できるよう、事業所だけではなく地域などの社会資源を生かしたケアが出来るよう展開していきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝の申し送り時に基本理念スタッフ一同読み上げて意識を高めて支援を行なっている。またミーティング・定例会議・常勤会議などを理念の共有の場として活用している。その中で事業者としてのケアの方針などを確認しあっている。会議録にて出席できなかったスタッフも共有できるよう努めている。	今後も継続して各ミーティングを行い、理念の共有を図りたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	面談時や運営推進会議の際に、事業所の活動や理念を伝える場として活用している。	近隣住民の方たちへのアプローチが好きないため、力をいれていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	入居者さんとの散歩や買い物の機会に挨拶を交わし、気軽に声をかけていただいている。	事業所のイベントなどにも地域の方を招待し、より良い関係を作っていきたい。グループホームの場所・存在を地域の方に知っていただけるよう見やすい看板設置を検討中。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏祭りや区のリユース事業などの地域のイベントに参加させていただいている。昨年からは自治会に加入させていただいている。	今まで参加したことない、活動にも参加を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて地域での課題や要望が発見できるよう努めている。		地域の資源として近隣住民の方にはいかして頂けるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段の様子を見ていただく事で、自分たちでは気づきにくい、良い点や、改善すべき箇所を把握し、質の向上に努めている。		今後も全スタッフで自己評価を行ない、普段の業務に活かしていけるよう更にミーティングで徹底していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見を頂ける場として、真摯に受け止め、業務の改善に活かしている。名札やパンフレットの変更などの改善を行っている。		事業所・地域の課題を話し合う場として今後も活かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区のグループ連絡会を通して、話し合う機会を設けている。		サービスの質の向上のためにより密着な関係を作っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、どのような制度なのか、理解し必要について学んでいる。		今後はスタッフとの勉強会を行ない、より理解できるようニーズに応じて活用努めていきたい。していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し知識を深め、虐待防止を議題にした会議を定期的開催し、徹底に努めている。		研修・勉強会などには今後も積極的に参加していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>話し合いを十分に行い、ご理解をいただいている。電話や郵送での説明を希望される方もいるが、必ず事業所を実際に見て頂きその上で説明を行っている。</p>	<p>今後も同様に、ご理解いただけよう努めていく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の会話から利用者の意見を汲み取る努力をしている。また重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明している。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示している。</p>	<p>今後も同様に行なっていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に事業所の行事などを載せた通信を作成し送付させていただいている。面会時にはスタッフが日々の様子や状態を伝えさせていただいている。</p>	<p>通信とは別に、個々の様子が分かるような手紙などを送付していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口について説明を載せ、契約時に説明している。また、事業所内に苦情受付・窓口に関するポスターを掲示している。運営推進会議でも苦情等があれば反映していく。</p>	<p>今後も同様に行っていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務会議などでスタッフの意見・提案を聞く機会として活かしていく。</p>	<p>より良い運営がおこなえるように活用していく。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、勤務時間帯については変更していないが、利用者の状態や家族の状況に応じて勤務時間を変更しなければならない事もあると職員と話し合っている。</p>	<p>柔軟に対応していく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を抑える努力はしているが、代わる場合は前もって利用者に説明を行ない、ひとり一人に話しかけ、極力ダメージを防ぐように心掛けている。</p>	<p>出来る限り移動・離職がないよう努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への案内を提示し積極的参加を促している。各職員からの研修希望がある場合は勤務体制の調整を行なっている。	これからも職員の研修への参加を促し、支援の質の向上を図りたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームでの交換研修等・他事業所に見学に行き、相談等の交流をしている。	更にお互い向上できるように交流を深めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩を取るためのスペースはあるが、休憩時間等をきちんと取れる日ばかりではなく職員の中にはストレスを感じている。	職場でのストレスに対する軽減対策を検討して行きたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	電話やメールなどで随時、状況を報告している。	向上心に繋がるような環境を整えていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるような対応をしている。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしている。	今後も事前の見学や面談の機会を多く持ちたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や訪問面談をする事により、直接お話ができるような対応をしている。家族・関係者を含んだ面談と個別の面談を行なうようにしている。	今後も事前の見学や面談の機会を多くもちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への紹介や地域包括支援センターへの紹介を含めた対応を行なっている。		家族や本人が何を一番求めているのか、それに応えられるよう質の向上に努めたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに可能な限り見学や説明会を行ない、ホームの日常を体感できるよう心掛けている。		今後も見学の機会を多くもてるようにし、入居前からホームの雰囲気に馴染めるよう努めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が楽しくその人らしい生活が送れるように、スタッフとのコミュニケーションを大切に支援をしている。		今後も利用者とのコミュニケーションを大切に、支えあえる関係を築いていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族がいる方が少ないのが現状だが、家族のいる方に対しては家族との支援に対し話し合い共に支援を考えるよう努めている。		家族と相談する機会を多くし利用者とともに支えあえる関係が作れるよう努めたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前からの関係の把握に努めている。状態に合わせた支援を行なうよう心掛けている。		家族への支援を今後も継続して行ないたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等から誕生日のお祝いが届いた時などは電話が出来るようスタッフが支援を行なっている。		今後は馴染みの場所への支援に力を入れていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	男性入居者が多く、口論になる場面があるがスタッフがすぐ間に入りエスカレートしないよう対応を行なっている。スタッフは常に声かけをし利用者が孤立しないよう努めている。		良好な関係が築けるよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後、関わりを必要とされている利用者や家族に対しては電話相談や、直接伺い、お話を聴ける機会を作っている。		利用者や家族にとって一番良い状態になるよう、今後も継続して行なっていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人らしく生活できるよう、本人の行動や訴えを理解するよう努めている。スタッフとはミーティング等で話し合いをしている。		スタッフ全員で情報が共有できるよう、ミーティング等を今後も開催していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常での会話を大切にし若い頃の思い出等が話されることがあり、会話からの情報収集をしている。		入居前の情報収集を充実させたい。情報が少なく、生活歴を把握することが難しいケースもあるため改善していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の身体状況を常に観察し、変化にすぐ気付くことが出来るよう介護記録や業務日誌に書きとめ、スタッフは日々の状況を把握するよう努めている。		小さな変化や現状がそのような状態なのか把握できるよう、全スタッフで努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会時に相談させて頂いている。		面会時だけでなく、定期的に話し合える場も作ってきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。変化や対応の変更は必要な場合はそのつど職員と話し合いを行なっている。		必要に応じて、短期間での見直しも行なっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録の記載し、申し送り等で職員との情報の共有し介護記録の見直しに活かしている。		記録を活かした介護計画を今後も作成していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	常に柔軟な対応を心掛けている。事業所として限界もあるが可能な限り要望には応じていきたい。		社会資源を活用しながら今後も対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	季節の行事や寿司パーティー、踊りなどボランティアに協力いただいている。		より多くの方たちに支援していただけるよう関わってきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内外を問わず、情報提供・交換を行なっている		より多くの方たちと関係を築いていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関わりが多くなってきている。		今後、協働できる関係を確立していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ建物内にかかりつけ医があり、常に情報交換が出来る環境が築けている。本人や家族の意向もすぐに話し合える関係でもある。		継続して今の関係を大切にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	クリニックに週1回、認知症に詳しい医師が診察に来ており、気軽に相談できる関係を作り上げている。		継続して今の関係を大切にしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ建物内の看護職が頻繁に利用者の状態を見に来られている。その際に気になる事などを相談している。それ以外でも気軽に相談できる体制が整えられている。		継続して今の関係を大切にしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際に、病院関係者と話し合う機会を必ず設け、状態の確認や退院について、今後のサービス利用についても担当医師を含めて相談させていただいている。		入院時に備え、病院関係者との関係を広げていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際に、本人や家族と話し合いを行なっている。また介護計画更新などの機会に、希望に変化がないか確認している。かかりつけ医に対しては、本人・家族の意向を伝え、実現できるよう働きかけている。		本人・家族と繰り返し話し合う機会を今後も継続したい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期ケアについて出来ること・出来ないことを関係職員と話し合っている。		しっかりとしたケアが行なえるよう、重度化や終末期ケアについての対応を想定した勉強会を開催していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替える際、事前に本人・家族などと見学をさせて頂き、本人・家族などの不安な点などを担当者に伝えている。又、介護サマリーを提出させていただき、口頭での情報交換もさせて頂いている。		現状の対応を継続したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時やミーティングの際に繰り返し尊厳や秘密保持、個人情報の取り扱いについて繰り返し伝えている。</p>	<p>徹底されるよう継続していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望を選択できるような雰囲気にする事や本人の力に合わせた説明をさせていただくようにしている。</p>	<p>検討を繰り返し、利用者本位のケアが出来るよう努めたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>決まり事ではなく、入居者一人のその一日の希望を話し合い可能な限り支援をさせて頂いている。</p>	<p>まだまだ利用者主体となっていないので改善していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者と話し合い洋服選び等をしている。理美容については現在、外部を希望されている利用者はいないが、希望があれば支援していく。</p>	<p>地域の中の理美容の利用も含めて検討していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る範囲で料理の準備や後片付けを利用者と一緒に行なっている。</p>	<p>本人の好みをどのようにして取り入れていくか工夫を重ねたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者と一緒にお買い物等支援を行ない、可能な限り希望に沿うよう努めている。</p>	<p>要望がなかなか表現できない利用者であっても日々の会話や活動を通じて把握し、支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄情報は各職員が気づいた事を申し送りや個人記録で共有している。誘導については極力、尊厳を傷つけないよう配慮している。		個別の排泄ケアが確立できるようにしたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しめるよう支援をしている。		今後も希望に合わせた支援が出来るよう努めていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて適度な休養が出来るよう、状態把握に努めている。		休息する場所の環境を、より良くしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職歴を考慮して、料理や掃除、買出しなどの役割分担を行なっている。		全ての利用者が役割や楽しみごとが発見できるよう今後も努力していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と相談し、お金を所持したり、自由に使えるようにしている。支払い時に利用者の力に合わせて、お金を渡したり、おつりを受け取っていただいたりしている。		お金を持つことの大切さや意味を全職員が理解できるようにしていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の買物希望や散歩の希望があれば、それに沿った対応をしている。外出希望のない利用者であっても、天気の良い日などは、散歩や外出等に誘い、外の空気を感じていただけよう支援している。		現状なかなか希望はないが、外食やお茶を飲みに行くなど、外出の幅を広げていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	法事や友人に会いに行くなど、希望に沿った支援を行なっている。		利用者の行ってみたい所をスタッフが知り、可能な限り対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等のやり取り、家族等への連絡の支援を行なっている。		今後も自由に電話や手紙ができるよう支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限は設けず、自由に面会することが出来る。スタッフも来客者に対して笑顔であいさつするよう心掛けている。		継続して現状の体制で対応していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なってはいけないと、会議やミーティングの際に職員に伝えている。又、具体的な事例を検討する機会も設けている。		今後も全職員に理解してもらえるよう、勉強会等を通じて、最善の対応方法を検討していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個人個人の生活を尊重し、鍵を掛けないケアを行なっている。		今後も鍵を掛けないケアに取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく、施設内の巡回等を行ない、利用者の場所や状態をスタッフ同士確認し合い利用者の所在や様子の把握に努めている。		巡回方法やスタッフ同士の連携を今後も見直していき、しっかりと安全を確保していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に合わせた対応を行なっている。		状況に合わせた環境づくりを行なっていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に事故防止委員会を開催し、事例検討や、防止策について検討している。		今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応の研修は法人内外でも受けているが、定期的には開催していない。		定期的な開催を目指し、繰り返し研修をかさねて学んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行なっている。		全ての職員が避難方法を身につけられるよう、対策会議の開催を増やしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては随時説明させていただき、対応方法について相談させていただいている。		家族の希望を大切にされたケアが行なえるよう今後も話し合いを続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックを行なっている。体調の異変があった場合、口頭・記録・各職員に申し送りを行なっている。又、看護師職に随時相談できる環境が整っている。		見落としがないよう今後も注意深く利用者を把握できるよう努めていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のすべてを理解できているスタッフは少ない。薬の情報はファイルに入っており必要に応じて確認をしている。		薬の効能や副作用については今後も勉強会を含めて伝えていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	軽い運動や乳製品の摂取、マッサージ など、自然排便が出来るよう工夫した対応を行なっている。		利用者の便通の状況を把握し、そのひとにあったケアを心掛けていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。又定期的に歯科衛生士に口腔内の様子を見ていただきアドバイスを頂いている。		今後も歯科衛生士と連携して適切な口腔ケアが出来るよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分を記録に残し、個人の状態に合わせて工夫を行なっている。		摂取量に注意し、利用者の状態や習慣に合わせたケアを今後も継続していきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成・定期的な見直しを行なっている。感染対策委員会を設置し、事業所内外で研修を行なっている。又流行時期には臨時的感染対策会議を開催し、症状や予防法について確認しあっている。		定期的に感染対策マニュアルを検討し、適切な対応が出来るよう心掛けていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁は毎日消毒を行ない、食器に調理器具は使用のたびに殺菌をかねて乾燥機にかけている。食材は必ず加熱したものを提供している。		衛生管理に今後も注意をしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺に草花を植え、季節感を感じていただけるようにしている。また、看板は手作りのものを用意し、出来る限り温かい雰囲気になるよう努めている。		コンクリート作りのビル内にある為、今後もより明るく親しみやすいよう環境づくりに力を入れていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせた音楽を流したり、行事の写真や作品を展示し、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。		常に改善していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファの数が少なく全員が利用できない状態だが、別途椅子を用意したり、思い思いに過ごせるよう努めている。又、植物や季節の行事の飾りつけに配慮してる。		スペースをうまく活用し、利用者に合わせて環境を作り上げていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りそれまで使用してきたものや大切なものは、持ち込んで頂くようお願いをしている。新しく購入する場合でも利用者や家族と相談しながら準備している。		制限のある利用者についても、今後改善していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	スタッフ同士確認し合いながら調整を行なっている。		利用者の状態に考慮した対応を行なっていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室には手すりを設置している。その他は家庭と同様にしている。身体機能に合わせた生活が送れるよう、環境整備に努めている。		一人ひとりの状態に合わせた環境整備を心掛けていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに目印をつけたり、居室入り口に表札をつけ、出来る限り自立した生活が送れるよう日々、検討している。		家庭的な雰囲気をおこさないよう工夫を続けていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ付近の扉については、突風の影響でガラスが割れた事もあり、安全面から2階3階のベランダについては一定の制限を設けている。現在安全確保について検討中。		制限なく安全確保が出来るよう検討していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

健康面や医療面での不安を訴えられる、ご利用者やご家族が非常に多い。グループホームやすらぎは医療法人が運営しており、同じ建物内1階にクリニッ